

令和3年4月13日(火)

【第21回北陸地域連携プラットフォーム】

## 副業・兼業による都市圏プロ人材の活用に向けた取組

北陸財務局 総務管理官 笹本 純雄

北陸財務局の総務管理官の笹本でございます。

私のほうからは、「副業・兼業による都市圏プロ人材の活用に向けた取組」ということで、提言に向けた御提案をさせていただこうと考えております。

まず、1ページ目でございます。

これは前回の資料ということで、先ほども出てまいりましたが、おさらいの意味でもう1回説明させていただきますと、常用雇用というのは賃金格差や移住がネックとなり、北陸の地域企業が都市圏に在住するプロ人材を採用することには困難が生じている。

そこで、試験的な活用が可能で採用コストの低減、かつテレワークが可能な副業・兼業によるプロ人材の活用は有効なのではないかという御議論をいただいたというところでございます。

次は2ページ目でございます。

それで、さらにこういった副業・兼業による動きを推進するという目的を認識いたしまして、第1回目のプラットフォーム以降、北陸地域においてヒアリングを実施いたしました。ヒアリング先は、いわゆるプロ拠点でございますとか県、金融機関、中間支援組織、副業・兼業専門の人材紹介会社に行いました。項目につきましては、つなぎ手、関係機関の連携状況ですとか、あるいは副業人材の活用を広げるために必要な取組などについて聴取したところでございます。

次が3ページ目でございます。

ヒアリングを行った結果、北陸地域においてこういった副業・兼業に適した経営課題があるのかということ聴取しましたところ、まず上の表の上側でございますけれども、いわゆるネット通販でございますとか電子商取引、あるいは製造プロセスや在庫管理のIT化といったものが適している。こういったものは、先ほど申したように、リモート

を活用して行われているというのが現状でございました。

成約事例としては、1例、石川県の企業が在庫管理のIT化を目的に、都市圏の副業プロ人材を活用している事例を掲載しています。この事例は、金融機関がこの企業のニーズを把握いたしまして副業人材活用を提案し、人材紹介会社につなげたという事例でございます。契約2か月目にして既に成果が現れているという現状でございました。

次が4ページ目でございます。

つなぎ手、関係機関による連携につきましては、既に新たな連携の動きが広がり始めているということでございます。ここに3つ例が書いてありますけれども、こういった連携する動きが出始めているということでございます。一方で、課題も多いという現状でございました。まず、企業さんの課題でございますけれども、副業・兼業については、知らない・関心がない、あるいは副業・兼業プロ人材の活用により業務改善できるといった発想に至らない企業が多いというお話でございました。

次に、つなぎ手ですとか関係機関の課題としては、まずプロ拠点や金融機関が単独で副業・兼業についてのセミナーを開催しても効果は限定的であると。あるいは、金融機関の一部においては、取引先企業の経営課題の解決策として、外部人材の活用を提案することが浸透していない。さらには、副業・兼業の推進に補助金等を活用して先進的に取り組む地方公共団体がある一方で、興味はあるけれども情報等が不足しているため取り組んでいない地方公共団体が大半であるということでございます。

次、5ページ目でございます。

このような状況で、ヒアリング先から色々な御意見、要望をいただきました。

まず、機運の醸成でございます。北陸においては、副業人材活用の機運を醸成するために、様々な主体がセミナーを開催することで、企業さんに副業・兼業が既に大きく活用されているということを理解してもらう必要がある。あるいは、企業向けのセミナーを開催するに当たり、公的な機関と連携して企業に安心感を付与することが重要だと、こういうお話がございました。

次に、つなぎ手等の機能強化と連携でございますけれども、人材紹介に係るスキル、ノウハウを有していない金融機関を対象としたセミナーや勉強会を要望されている方もいらっしゃいました。

また、メインバンクが人材紹介業務を行っていない場合、人材ニーズを取りこぼしてしまうおそれがある。したがって、金融機関のレベルの向上に加えて関係機関の連携が必要であろうと。あるいは、地方公共団体や金融機関等の関係機関が、副業・兼業によるプロ人材の活用に係る知識、成功事例、ノウハウ等を共有して、同じ方向で取り組まなければ地域に浸透しないのではないかと。あるいは、企業への浸透にはつなぎ手のサポートが必要だろうと、こういう御指摘もございました。

最後でございますけれども、このような現状ですとか御意見を踏まえまして、プラットフォームからの提言としては、このようなことが考えられるのではないかとまとめたのが6ページ目でございます。

まず、上の図でございます。副業・兼業プロ人材の活用に向けて、地域企業とプロ人材との間で、両者をつなぐ役割を担うつなぎ手と関係機関を図にしたものでございます。つなぎ手と関係機関の囲みの中の輪は、直接企業やプロ人材と接するつなぎ手を表しております。ちょうど5つの円を別の大きな円がつないでいる図でございます。

まず、つなぎ手となる機関や団体は、つなぎ手同士の連携を進めていく。そして、輪の外にある地方公共団体ですとか大学、マスメディアなどの関係機関は、つなぎ手の取組や連携の取組をサポートする。こういった連携の取組が北陸地域で広がれば、企業の人材ニーズを取りこぼすことなく、副業・兼業により高いスキルを持った都市圏のプロ人材の活用が可能となり、ひいては地域経済活性化につながっていくのではないかとということが考えられるということでございます。

次に、下の囲みでございます。具体的にどんな方策があるかということでございますけれども、まずは金融機関と公的主体との企業向けセミナーの共催などの連携を推進していく。あるいは、金融機関の業界団体と連携した取組、例えば金融機関の機能強化に向けた勉強会の開催といったことが考えられるのではないかと。さらには、つなぎ手同士の連携、つなぎ手と関係機関の連携など、地域の特性に応じた連携に係る好事例を横展開していくといったことが考えられるのではないかとということでございます。

こういった取組を北陸財務局としてはサポートしていくと、こういった提言案が考えられるのではないかとということでございます。また御議論いただければと思います。

私からは以上でございます。

以上